

# 日本の精神保健医療福祉対策

兵庫県豊岡保健所 柳 尚夫

## 1. 日本の精神科医療の現状の確認

- 1) 1960年代に精神科病床を増加させ、維持してきたので、日本には世界の精神科病床の20%にあたる約30万床がある
- 2) 平均在院日数は、先進諸国の3～20倍
- 3) 日本国内でも、人口当たりの病床数や平均在院日数には、都道府県格差がある

## 2. 2025年に向けた予測と対策

2015年の長期入院患者の内、4分の1が、2025年までに、半数余りが2040年までには死亡

精神科長期入院患者の多くは、このまま放置すると死んでいく。一方で、今がんばって出した人は高い確率ですぐ病院に再入院してしまう。その原因は退院後の地域定着や医療・福祉・介護連携に課題があるから。今こそ、地域移行・定着支援の仕組みづくりを各地域ですれば、長期入院患者が死んでしまう前に、地域に戻れるようになる。

## 3. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築準備

### 1) 地域移行・地域定着 <条件>

- ①ピアサポーターを養成し、雇用していること
- ②保健所が、連携会議等を効果的に運営していること
- ③病院が、対象患者のリストアップと事業者の院内への受け入れに協力的
- ④病院毎に、一人ではなく、数人以上の地域移行申請者がいること(患者が多いほど効率のいい支援ができる)
- ⑤アパート等への退院が一定できること
- ⑥GHや福祉施設への受け入れが可能なこと

### 2) アウトリーチ体制づくり

平成26年診療報酬化されても、広がっていない。地域毎でのシステム作りが必要

### 3) 精神障害者の就労としての障害者/高齢者生活支援

障害者や高齢者の生活支援を障害者の仕事にする取り組み